

そもそも田園生活を提唱しようと思ったのは、子作り・子育ては大都会では出来ないと考えたからです。

家族に於いて、夫婦の役割、子供の役割、同居する親族の役割を原点に戻せば解決すると考えました。

家族の中で生活の糧を稼ぐのは誰か？昔から父親でした。子供を育て、教育するのは誰か？昔は母親でした。一番大切な子供たちの躰をするのは？両親と祖母でした。その上で家族を見守ってくれる近所の人たちです。こういう環境はマンションや自然のない都会の中ではできません。

若い夫婦が負担できる土地の安い所に我が家を持てば、将来拡張できるスペースがあり、家族が力を合わせて開墾して食べる野菜ぐらいは作れる所に故郷を造ろうと言う発想です。

世界が近くなったと同じように、都市間の距離が時間的に縮まりました。

通勤時間が片道3時間の範囲で探せば、土地が安く

て広いスペースを確保することができる田園地帯が至るところにあります。昔の出稼ぎ、現代の単身赴任は男の仕事場の範囲を広げます。昔は今のような交通機関がなかった上、週休二日制ではなかったので盆と正月ぐらいいか帰省することはできなかったが、今や二、三時間あれば簡単に帰ることができます。

それでも長時間の通勤は大変です。単身赴任は免れません。二重生活は若い人たちの経済負担は大変です。そのためにも、企業が仕事場の近くに社宅を建てて従業員の宿泊の用意をすべきと思います。この場合の社宅もワンルームで良いのです。

いまでも、官公庁では転勤する職員の社宅があります。企業では家族ぐるみの転勤など考える必要はありません。企業も「社員は家族」という昔ながらの信頼感を構築することが大切です。戦後の労使対決の構造から経営者も抜け出さなければ人は集まりません。

このように、単身赴任用の住居と週休2日を原則に